



学会長挨拶

平成30年度日臨技九州支部医学検査学会（第53回）

学会長 野中 恵美

（公益社団法人 大分県臨床検査技師会 副会長）

平成30年度日臨技九州支部医学検査学会（第53回）は、（公社）大分県臨床検査技師会の担当で平成30年10月6日（土）、7日（日）の両日に別府国際コンベンションセンター B-Con Plazaを会場として開催いたします。

本学会のメインテーマは、“協（かなう）”サブテーマを～多職種との連携と他職種との協働～としました。“協（かなう）”の意味ですが、文字から連想されるとお力をお合わせることで。しかし、この文字にはもっと深い意味があります。

“協”の部首である十の一は東西を意味し、縦の丨は南北の意味があります。これらは東西南北と色々な方向を向いている力を合わせることで1つの目的を成し遂げるとの解釈ができます。医療に例えると、専門性の異なった医療スタッフが連携し、患者一人一人の診断・治療を目的として一丸となって働いています。各専門的な力を同じ問題解決の方向に向けることで、早期の診断・治療に結びつくと思います。私たち臨床検査技師の専門性を活かすためにも、医療スタッフの連携が必要不可欠です。

このテーマを基に本学会は、一般演題をはじめ教育講演、文化講演、シンポジウム、学生シンポジウム、学術部門別企画などを計画しております。教育講演では、臨床検査技師から研究部門に進み、その研究成果から数々の賞を受賞された大分大学全学研究推進機構教授で“スーパー抗体酵素”を発見された一二三 恵美教授に「臨床検査を学んだ研究者として」と題してご講演頂きます。また、特別シンポジウムには学会のサブテーマである「多職種との連携と他職種との協働」を掲げ、ICT、NST、AST、輸血、在宅医療で接点の多い他職種の方にシンポジストをお願いしています。さらに分臨技企画として、「検査技師から広がる可能性」をテーマにシステム開発、医師、研究者に転身された方や専門性を活かして起業された方々からのお話を聞かせて頂く予定です。文化講演は、アフリカンサファリの獣医師として活躍されており市民に馴染みのある神田 岳委先生に「どうぶつと共に生きる」と題してご講演頂きます。同時に市民や学生に臨床検査技師の仕事などを知って頂くためのブースや進路支援のブースも併設する予定です。

大分県では、“国民文化祭2018”の担当県であり奇しくも学会開催と時期が同じであるため沢山の来県者が予想されます。さらに、ラグビーワールドカップの公認キャンプ地としても大分市、別府市の見どころ満載です。九州各県の皆様に山の幸、海の幸、風光明媚なおんせん県大分を楽しんで頂きたいと思います。

平成の年号で開催するのは今回が最後になります。皆様にとって記憶に残る学会になりますよう努力いたします。多くの方のご参加を、大分県臨床検査技師会会員一同、心よりお待ちしております。